Yokoso Obara Iinkai

おばらのじかん

Take Free [0円]

第21号

2020 Winter

巻頭特集

おかえりなさいオバラっ子

Artist 安藤卓児

山里小原でアート展!?

[イカくんキンちゃんこと画家 山本夫妻]

[中部小 五代目 豊田小原和紙魅力発信隊]

[小原宴火 ひと月遅れの小原の花火!]

[マンガ イカくんキンちゃんの小原日記]

[小原いろいろ情報]

小原人集まれ!「おばちゅう卒」おばちゅう以外でもOK

www.facebook.com/obachuu

巻頭特集

おかえりなさいオバラっ子

Artist 安藤卓児

ROOM2 の迫力のある作品、真ん中の穴から顔も出せる

小原田代町セバイシにて開催された、アーティスト安藤卓児さんの個展『位相の逆転』にお邪魔して、安藤さんにお話を伺って来ました。

安藤さんは、祖父母が住んでいた田代町の家屋を修繕し、梅坪町から家族で移住して来ました。

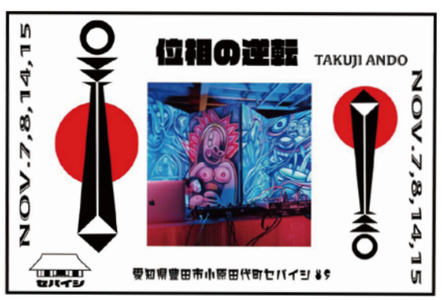
まずは今回の展示についてお伺いします。

今回の展示は「位相の逆転」というタイトルです。

東京などの都市を中心に芸術文化や文明が発信されるといった、かつては揺るぎなかった価値観が、現代ではもはや旧態依然のものとなっていて、むしろ農村や田舎で実験的な暮らしを営みながら生み出された芸術文化の方が、本質的な価値を持ち得るのではないかという問題提起と、既存の価値観がひっくり返る転機となるといった意味合いを持たせています。

また東京のギャラリーで展示した作品を、作品の生産地である小原で、展示場所となった築100年を超える茅葺の小屋や、里山、田畑などの周辺環境とともに展示することで、私の暮らしそのものを作品化することを試みました。

展示場所となった築 100 年の茅葺きの小屋



ROOM3 で話す安藤さん

この小屋やこの辺りの環境、安藤さんの暮らしそのものを見てほしいということなんですね。

そうです。これは私の先祖の使っていた小屋です。一番左のｒｏｏｍ1は、会期中にもまだまだ作っていくつもりです。

この大きな絵画があるのがｒｏｏｍ2、昨晩はこの絵を背景にライブをやりました。

一番右のｒｏｏｍ3は馬小屋だったようです。荒壁の質感や外から入ってきてがらっと変わる空気感を感じてもらえたら。

ｒｏｏｍ2のこの絵は迫ってくるような迫力があります。

ROOM2 でのライブの様子

この絵は元々は東京での展示に向けて描き始めました。今回この展示をすることになり、「ああ、こういうことだったんだ」と思いました。一日八～九時間ほどアトリエにこもって制作し、半年ほどかかりました。

この小屋は以前伺った時は締め切られていたのにずいぶん雰囲気が変わりましたね。

展示会をするにあたって、かなり片付けました。とても億劫な作業でしたが、このタイミングで一気にやりました。カイコを飼育していた二階部分にもゴミがたくさんあって。

アトリエにある作品の数々

ゴミは処分し、昔の民具は残して、ゆくゆくは展示にも使おうと考えています。

裏の山の整備も？

長期プランではありますが、山道の整備もやっていきたいです。まだ行ったことのない、地図上でしか知らない場所もあったりして。

農作業がひと段落する、冬の作業ですね。子供たちが入れるところまで手を入れていきたいです。今も近所の方からもらったシイタケの原木を置いていたり、薪にする用に間伐したりと山には入っています。やはり山の中は気持ちがいいですね。

広大な敷地の管理も大変でしょう。

夏の草刈りは一周するともう最初の場所を刈らなくてはいけなくて：。農作業、制作活動をどうタイムマネジメントしていくか、これも学びです。

小原での製作はどうですか？

広いアトリエが確保できるのはいいですね。作品も大きなものもありますし、今までの作品もたくさんあります。

街中で工場をアトリエに借りていたこともありますが、建物も冷たい感じがして、周りもマンションなど：。あまり良い波動ではなかった。

小原では、行き詰まると山を見たりして、そうすると少しの時間でも癒されます。

景色を見ながら描いたり？

いえ、制作中は閉め切っています。だから最初は近所の人には、何やってるんだろう：なんて思われていたかもしれませんね。

僕は割とシャイなたちなんですが、農作業をする姿を見てもらうことから顔見知りになったり地域の人とのコミュニケーションが始まっています。

もし米作りを始めていなかったら、うまく地域と関わることができなかったかもしれないですね。

米作りは何家族かで協力してやっているのですよね？

気持ちの良い自然の中

うちと小崎さん家族（おばらのじかん15号で取材させていただきました）、土岐市の加藤さん家族中心にしています。

無農薬無肥料で作っているのですが、夏の除草作業は地獄です。（笑）早朝から田んぼに出て2時間除草作業をして、そこから8～9時間制作する、それが毎日繰り返されるとなると大変で。

自分のペースを見つけて無理なくやっていくというのは農作業から学ぶところが大きいです。

無農薬無肥料栽培で三家族の一年分のお米を？

賄えません。そこは試行錯誤してやっていくしかないですね。ただ、米作りを始めた最初の頃はとにかくストイックにやりすぎてしまって。そうするとどうしても無理が出てくるし大事なものを犠牲にすることにもなります。

つづく

収穫した無農薬のごはん

農作業にはだんだん慣れてきて、毎年少しずつ覚えてくるので、年々楽にはなってきています。

無農薬無肥料の米を自給したいというラインは突破したいと思っています。

安藤さん自身は子どもの頃から農作業に慣れていたわけではないでしょうから、大変だったのでは？

地域の人にはかなり助けてもらっています。さっきも軽トラのバッテリーの調子が良くないのを知った近所の人が、後で持ってくるようにと声をかけてくれたり。

結の名残りでしょうか。昔は屋根葺きや結婚式や葬式などもお互い助け合ってやってきた。米作りや農作業でも助けられています。

そういう繋がりや困った時のライフラインを現代版にアップデートして取り戻せたらいいですよね。

小原に移住して、すぐに米作りを始めていますね。

フランスに住んでいた時からオーガニックショップで買った野菜を食べたりしていました。農業のことや持続可能な暮らしなどにも興味が出てきて、その頃読んだ【わら一本の革命】という自然農法についての本に感化され、「小原でやれたらいいな」と考えていました。

ずっと里山を手入れして暮らしてきた背景がここにはあって、それを更新しながら守って行けたら。

ご家族で移住してらして、こちらでの子育てはどうですか？

妻と2人の娘と4人家族です。次女はこちらにきて生まれました。

子供がいるからこそ小原に住んでいるというところもあります。長女の入園前はまだ他の園と迷っていましたが、木崎さんのうちで薪ストーブの火にあたったりしながら、こちらでゆっくり子育てするのもいいかなと思い至りました。

子供を通じて友人や知人が増え、地域の一員になれることもありがたいです。

子供たちが絵画の穴から顔を出したり、見にきた子供たちが安藤さんの音楽ライブに参加したり、正に暮らしそのものを見せてくれるような展示でした。

後日奥様の未来さんにもお話を伺ったところ、「安藤卓児らしさを大切にしてほしいと思っています。小原は、これから更に【枠を飛び出す表現者】という彼らしさを表現できる場所だと思っています。」とおっしゃっていました。

そんな彼が小原でどのように暮らすのか、これからの活動も楽しみです。

ニューヨークでのパフォーマンスの写真

安藤 卓児 氏

愛知県豊田市出身、在住。大学在学中より芸術活動を行う。2011年パリへと拠点を移す。自身の個展では、作品制作、キュレーション、販売までを一貫して行い、各種イベント、美術館などでの音楽活動も並行して行う。2015年帰国後からは、祖父母の古民家、田畑、里山の再生など持続可能な暮らしに取り組み、国内外で芸術活動を行っている。小原には2017年から半分住み始める。

http://takujiando.com/

A.H

イナカぐらし したいな…… 広いアトリエ ほしいね……

エカキ フーフ

小原地区大平町に住む画家の山本耕一さん、雅枝さんのご夫婦ユニット「アトリエa・wa」さんに小原に来た経緯やお仕事についてお話を伺いました。山本夫婦には、おばらのじかんの編集部に3年在籍していただき、現在も尚、おばらのじかんの4コマ漫画イカくんキンちゃんをお二人で連載してもらっています。

大平の白山神社

アトリエを求め小原に

山本さん夫妻が小原に移住したのはちょうど16年前それ以前は、名古屋でデザイン業をお二人でしており、ブックデザインやイラスト、都市計画などの企画書などを多く手掛けていました。

当時はバブル崩壊前ということもあり、デザインの仕事がとても忙しく、2人でフル回転し頑張ってたそうです。忙しすぎたのか、ストレスなのか。耕一さんはある晩、急にお腹が痛くなり医者に駆け込みます。

病名は膀胱炎でした。大事にはいたりませんでしが、少し前に起きた阪神大震災、今回の膀胱炎で耕一さんは人生を見つめ直します。そして「僕は本当は〝えかき〟になりたかったんだよな～」との思いにいたり、本当に描きたいもの、描く必要のあるものを描いていきたい。とデザイン業をやめ、二人で画家になることにしたそうです。「でも普通は急にやめないですよね」と笑って話す雅枝さん。急にデザイン業をやめたこともあり、2年くらいで貯金が底をつきだします。名古屋での家賃が重くのしかかったこともあり引っ越しを考えて、各地の物件を探しました。

そんななか、小原に住んでいた作家の仲間から、「小原で空き家がでるよ」と連絡が入り引っ越すことになったそうです。

画家になったものの、初めの頃は全然売れなくて、朝から晩まで東京の画廊を歩いたりしたこともありました。そのうち個展などを積極的にして、奥さんの作品が先に、耕一さんも徐々に売れだしました。

当時は、東京でも個展をよくしたそうです。名古屋と違い、東京での個展は来る人数も多いし、見に来る人が各自自分の価値観を持っていて、いろいろ意見を言ってくれるのがとても新鮮だったそうです。

現在は、アーティストが絵の具で描くみたいに、キュレーター（学芸員など展示の企画や情報を発信する仕事）がアーティストを使って、展覧会を開くような時代になっていて、アーティストは、自分の自由な作品を作りづらい時代になっていると美術事情もついても話してくれました。

楽しくユニークなお絵かき教室

「アトリエa・wa」では、月1回程度のお絵かき教室もやっているそうです。

教室では、毎回テーマを設定して、そのテーマに沿って生徒さんに絵を描いてもらいます。テーマは普遍的なものだったり、生徒さんのリクエストだったりするそうで。そのテーマ資料を見せてもらうと「本能」だったり「さかさまに…」、変わったものでは、「動的平衡」（福岡伸一教授）や「フォース」（スターウォーズ）など多彩で、深く考えさせられたり面白い内容ばかり。

文章量もA3用紙2枚にびっしりと掘り下げた内容で書かれていて好奇心がつきません。それに耕一さん自身も楽しんで書いているのがよくわかります。

テーマを設定すると生徒さんものめり込んで楽しんで描いてくれるそうです。

「絵を描くのは楽しいことじゃないですか。気づいていない人が多くて、それに気がつくとすごく絵を描くのが楽しくなってくるんです。」と耕一さん。

「ぜひ、お父さんや家族で参加してほしい」と雅枝さん。家族参加で教室をやったことがあり、子供もお父さんの絵を減多に見ないし、「お婆ちゃんが絵を書くなんて！」と参加者同士の新鮮な驚きと刺激があって面白かったそうです。

教室の醍醐味は、最後の全員での講評。生徒さん自身が描いた絵を他者の目を通じて見てくれる感想は、自分の思いもよらないものが出てくるので、毎回楽しみだそうです。

以前小原地区で行ったお絵かき教室の様子

「それに、絵を描くとその人の全部が出ちゃうんですよね。文章だとごまかさせたりするんですけど、どんなに頑張っても出てしまう」そんなところが絵を描く魅力だとも。そして、絵を描くことは特別なことでなく、普通に気軽に楽しんで絵を描いてほしいとも話してくれました。

T.S

アトリエa・wa　山本 耕一 氏

1949年京都市生まれ。同志社大学文学部卒。個展：東京・名古屋・京都で合計十数回。グループ展：多数。以前はアクリル画でしたが、今は、コピックによるドローイング作品が中心。

アトリエa・wa　山本 雅枝 氏

1961年静岡県生まれ。個展：1997年～主に東京・名古屋にて開催。グループ展：1998年～東京・愛知・京都・山梨などにて多数。パステル・顔料・墨を画材の中心とした平面作品。

お絵描き教室に興味持たれた方はwebサイト・またはお電話でお申し込みください。

https://atlieawajimdofree.com/

電話0565(65)3610

webサイト

中部小 五代目「豊田小原和紙魅力発信隊」

小原中部小学校では、六年生を中心に豊田小原和紙で制作した缶バッジを配布しながら、小原和紙の魅力を伝える活動をしています。

この缶バッジは『和紙の紙すき→型取り→切り取り→型はめ→アクセサリー付け』と、多くの工程を児童たちが工夫しながら作り上げています。その数、なんと年間千個以上！

広報も児童たちが担当。「思いを伝えるメッセージ担当」と「要点が伝わる言葉を考える担当」に分かれて、自分たちで考えて活動しています。

そんな魅力発信隊から2つのお願い

①缶バッジを置かせてもらえる場所の紹介をお願いします。

②バッジの裏にあるバーコードからつながるアンケートにご協力お願いします。

【お問合わせ】小原中部小学校
電話0565(65)3002

J.I

宴火 ～小原を元気に～ ひと月遅れの小原の花火！

令和2年9月27日に手筒花火の団体小原宴火がコロナ禍でも小原の皆さんを笑顔にしたくて花火大会を開催しました。

五月、まだコロナの自粛ムードが漂う中、「こんな時だから小原の為に動くのが小原宴火なんじゃないの？」と声を上げたメンバーがいた。どうせやるなら少しでもお客さんに生で手筒花火を見てもらいたい。これはメンバーの譲れない想い。何度も何度も支所やメンバーと話し合った。ソーシャルディスタンス、花火の中身等、課題は山積みだった。何よりこんな時にやるべきだろうか？最後の最後まで悩んでいた。

当日、想像以上の反響だった。「花火ありがとう」の声をかけて頂き、小原宴火をやっていて良かったと心底思えた。これからも小原を元気に!!

小原宴火
代表　澤田真之介

小原いろいろ情報

カンゾカシキ
【1月15日(金)】

小原地区の冬の風物詩、カンゾカシキ。和紙作りの工程のひとつで、和紙の原料となる楮の木の皮を蒸して剥ぎ取る作業。どなたでもご参加いただけます。

和紙のふるさと
豊田市永太郎町洞216－1
0565(65)2151

蚕霊神社の祭礼
元旦祭【1月1日】
節分(豆まき)【2月3日】
愛知高原国定公園内にあり、蚕をお祀りしている神社として知られる。

蚕霊神社
豊田市日面町下ノ田534－1
0565(65)2683

おばら地区の物件を探すなら!
豊田市　空き家バンク　検索
www.city.toyota.aichi.jp/akiya/

小原の情報ページ（おばちゅう以外の人もOK!）
『おばちゅう卒』是非登録してね!
www.facebook.com/obachuu

STAFF 小原白字感　編集後記

今年の四季桜は、咲くのがゆっくりでやきもきさせられましたね。そして今、雪との共演を魅せてくれました。久しぶりの雪と例年より濃いピンク色の四季桜。大人もワクワクする美しい小原の冬の始まりです!

A.H（今号編集長）

魅力発信隊の取材で得た内容を全て載せれてないのが心残りでしたが、取材で心に残っているのは、みんながやらされているのではなく、率先して考え、楽しく活動する姿。おばらの未来は明るいと感じました。

J.I

やりたかったこと、行きたかったところ、悔しい想いは沢山あるけど。コロナ禍だから出会えた人や、やれた事もありました。一度きりの人生、出来るだけ前向きに生きたいものです。

S.S

今回は、小原の作家さん特集でした。個性豊かな作家さんとのお話はデザイン業をしている私とは、すごく共通する部分とまた異なる部分もあって、とても面白かったです。なぜか小原に作家さんが多いので、掘り下げてみたいとも思いました。

T.S

ようこそ おばら委員会
発行:2021年1月【ようこそおばら委員会事務局 豊田市役所 小原支所】
〒470-0592 愛知県豊田市小原町上平441-1 Tel 0565-65-2001 Fax 0565-65-3695
E-mail：obara-shisho@city.toyota.aichi.jp　今後、本誌の郵便を希望される方はご連絡ください。